



## 文部省、内務省、法務省連絡会議

海校や私にすぐこの教育入の学友諸君！  
就中、文部省の学友諸君！

文部省は君達の建議公認へ努力、文會連とする。今も、その結成の意義と任務を曉らかにし、すぐこの連合を文部省の旗の下に結集し、今後の手に相ってこれれ事を訴え、声聞せとしてそれを明らかにしたい。

現在、文部省に於いて「文部省聯合公認執事」なるの、こゝる一部の諸君がおり、との正当性、大衆性をなんとか維持せんとして活動しておられるが、我々はこれら諸君の「文部省」の成立の全くの不正さと、非正当性、その役割の犯罪性、偽善性を明らかにしていかねばならぬ。

「この「文部省」の事の成立本源は以下のものである。昨年、二月二十日文部省連入以来、四月、さきの海外大困難の事に連れておる時にあつて、文部省大會において自衛委を「文部省自衛公連合」改組し、その根柢を経験して、自衛公の旗の下でヨツテ正しくその用くあつて、昨年九月三十日民衆の諸君を中心とする一部の諸君が東大輪場において文部省大會を開キチあつたことによつて成立していられたものである。しかるど此は、文部省の同がかなり限り換案は行ひゆむりと確然したが教換兵が、大學正義成立の前に恐怖し、何か何ら換案をやうければ」という形で、我々との建議を反古にし、大學當局の前に屈服してゆくと想定して成立し行つたといつ、正にこの成立過程そのものの中大犯罪性が刻印されしものである。

文部省連合の主たる生徒は既に衆の構成と、との白黒化、在籍封入依拠して形で、文部省の権利である投票権をうけ、して、全く正当の要素と、彼らの言つ民主義力の統一の美名の下に組織されて、いたものと見ほの「文部省」のである。この「文部省」は二年前の、民青執行部の學生大會での大罪的暴行未遂の下で、学生に乘り込み込まれ、そして、そののりこえの上に構築され、いた移転阻止パリケード占拠事件の過程を付らまじめに總括することなく、今まで失禮返りを以て、學生の威圧力と革命生徒は殺し、至々スススの主義主義へとモドのめり込んでもくじめの不合法性をみぢとらんものとヤンキードナつてゐる。現在、彼らは、アベートレーベンと云つてゐるが、前の「八月民主連合政府の一休だ！」と書いたのだ。もはや、そのなりがアタマチ、ズムは出日のおり無限大組織しかねじやう。

ところで、文部省の旗の下に結集して、この多くの連合は現在、擴張化して自衛としての機能を果さざり、大抵は成るが、どうもねじつてゐる。文部省の旗の下に結集して、民友自衛は、その再建を迫られること。一戦後半期と民主主义と依拠して運動を組織して、自衛公が、明治の全国的の反戦運動の過程でその構を破壊するものとして、アベートレーベン、基本的には未だ、その構を突破しきれて、じゆじつと、現実を生みだして。

我々は、そのかうの状況を察知し、全人民的お希望を抱き、そのかうの構を突破する運動を構築するときは、やりとめをなし、文部省を結成し、新入生を養ふことで、文部省連合公の革命的に再建して、これがれ能がれゆくのである。

現在の「文部省」のまゝ上生徒は解し、やがての先進的、戦争的手段は文部省連合してゆこうではないか、

文部省連合公の士を、政府アルショウバーは、その巧妙な切り札を打ち出している。しかし我々のなかには、日本を粉砕し、文部省連合公の爆発をめちどることによ、て元年代階級斗争の展望を切り開いてゆくのがねないが、

の日本が保有する銀行の資本、すべての軍隊は組織し共に、文部省連合公を打つてゆかん。